

呉市立美術館では、呉市が海・港と共に歩んできたことから、海の恵みと自然と共生する人々の生活情景等を捉えた作品を主に収蔵しています。

コレクション展Ⅱで展示している写真作品から、緑川洋一の《呉海軍工廠被爆》《巨大タンカー誕生》の各シリーズ作品を紹介します。

《呉海軍工廠被爆》《巨大タンカー誕生》シリーズ

緑川洋一（1951-2001）は岡山県に生まれます。美術志望でしたが父親に認められず、日本大学専門部歯科医学校に進みます。卒業後は総合病院勤務し、郷里に戻り岡山市に歯科医を開業し、そのかわら写真活動は続けます。生涯「アマチュア写真家”を通し、その理由を「アマチュアのスタンスを貫いたのは、自分で撮りたい写真を続けるためだった。」と話しています。

戦前は、瀬戸内の風土を中心にした写真を発表します。戦時中は、出征兵士家族の写真撮影や、岡山連隊区司令部・報道班員として戦災状況を撮影します。戦後、報道班員だった関係から原爆ドームや、戦後の軍事施設が整備され復興する様子を取材、撮影しています。

昭和20年6月22日、呉海軍工廠・造兵部を中心に呉市は空爆を受けます。《呉海軍工廠被爆》シリーズは空爆後の施設内外の姿、また後片付けの様子を撮影しています。

その施設はNBC社に引き継がれ、戦後の巨大タンカー造船の先駆けの造船所となります。

《巨大タンカー誕生》シリーズは、8万トンの重量タンカー製造をNBC社呉造船部に取材、撮影した写真です。写真は撮影したものの当時は未発表でしたが、1990年後半から公開を始めます。

今回はこの両シリーズ全作品合わせて30点と、独自のスタイルで表現された《夜の釣舟》《瀬戸の釣り船》も展示しています。

この機会にぜひご覧ください。